

I 実践

1 研究主題

セルフエスティームを高め、自他の立場や気持ちを思いやることのできる人権教育の在り方

(1) 主題設定の理由

本校は、『自ら学び 心身ともにたくましく 心豊かな塙山っ子の育成』を教育目標として掲げている。それを受けて人権教育では、差別や偏見のない教育に努めるとともに、子どもたちに正しい判断や豊かな情操を養い、人権尊重の精神の涵養を目的とする教育を進めることを目標としている。

そこで、児童一人一人が日々のいろいろな人とふれあいや多くの体験活動を通して、自分や他の人々の気持ちを考え、互いに尊重し合うことが大切であると理解し、そこから思いやりの心が自然と育てられるように本主題を設定した。

(2) 研究内容

ア 豊かな体験活動

異学年（保幼小中を含む）交流・地域社会との交流・居住地校交流・福祉体験・あいさつ運動・人権教室（3 学年）の開催

イ 人権に関する作品の応募

人権書道・人権啓発ポスター・人権メッセージ

2 実践内容

(1) 異学年交流（縦割り班活動）

異学年の仲間と関わりながら、コミュニケーションを図り、思いやりや社会性を身につけることや幅広い仲間づくり等をねらいとして、水曜日のロングの昼休みを利用しながら縦割り班の遊びを実施している。

年度初めに 6 年生を中心にグループごとに遊びの計画を立てて、校庭を全校児童で使えるように、遊びや場所を計画的にローテーションしながら行っている。



(2) 居住地校交流

交流学习を通して、互いに認め合い、共に生きていく態度を養うとともに、社会性を伸長することや同じ居住地の同年代の児童と一緒に学習する機会を設け、障害や個性に対する理解を深めることなどを目的として実施している。

今年度は 7 月と 12 月に授業への参加や交流に加えて、給食もともにして交流を深めた。



(3) 地域社会との交流

10 月に行った地域防災訓練では、災害時等緊急に避難が必要となった時に、地域の人々と力を合わせて無事に避難することを目的として、それぞれの児童の住む地区の避難場所から学校まで避難したあと、様々な防災体験活動を行った。日頃から学習活動や見守り活動などでお世話になっている地域の方々といろいろな形で命を守る活動が一緒にできて、とても有意義な交流を図ることができた。



(第二次避難：地域の方と学校へ)



(シェイクアウト訓練)



(中学生ボランティアとの活動)

(4) 人権メッセージ

全校児童に呼びかけて行い、全校児童 376 人の作品が集まった。低学年の児童には、家に持ち帰って保護者と一緒に考えてもらった。友達とのかかわり方や命の大切さなど子どもたち自身や親子で話し合っ考えたメッセージが寄せられた。これらは校内の人権コーナーに掲示し定期的に入れ替えたので、自分の作品や知っている友達の作品などを探してよく見ていた。この活動を通して人権意識を高めることができた。

(5) その他の活動の様子



(保幼小交流)



(第4学年 福祉体験)



(あいさつ運動)

3 成果

- (1) 異学年交流の縦割り班活動を通して、上級生が自然と下級生に心くばりをし、下級生は上級生を手本とする態度が生まれてきた。また、思いやりをもってやさしく声をかける姿も多く見られるようになり、さらに同学年の友達の間でも優しく声かけができるようになってきた。心のふれあいが学校に温かい雰囲気を作り出している。また、様々な人々との交流活動を通して自己肯定感も高まり、相手に対してもやさしいことばかけや態度がとれるようになってきている。
- (2) 今年度行われた人権教室では、日頃実践している人権の学習がクローズアップされ、参加した3年生全員が自分や人を大切にする気持ちを改めて確かめることができた。
- (3) 人権に関するコーナー（「人権メッセージコーナー」や各クラスの「いいところはっけん！コーナー」）を設けることで普段何気なく考えている人権について意識化することができた。

II 今後の課題

子どもたちの人権意識を高めていくには、教職員の人権意識の向上も不可欠である。校内研修などをさらに充実させて、継続的に人権意識を養っていきたい。また、子どもたちの中に生まれてきた自己肯定感や他者をも大切にすることをさらに育てていきたい。

III 人権コーナーの設置の様子

